

学習指導案例

2年 組		指導者	〇〇 〇〇	教科等	算数科
単元	単元名等	かけ算をつかって計算できるようになる (教材名「かけ算九九づくり」)			
	目 標	(1) 乗法の意味や式について理解し、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできるようにする。(知識及び技能) (2) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して計算を工夫したり計算の確かめをしたりすることができるようにする。(思考力, 判断力, 表現力等) (3) 乗法の計算に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとするようにする。 (学びに向かう力, 人間性等)			
	主な学習活動や指導上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を掲示しておく。</li> <li>各自の考えを書かせる際、まずは式を表させ、図や言葉で説明を書くようにさせる。</li> <li>ICTやホワイトボード(板書)等を活用して考えの違いを位置付け、それぞれの考えに名前(タイトル)をつける。</li> <li>同じ考えの児童がいたときは、他児にも説明を促すことで、考えをつないでいく。</li> </ul>			
本時(〇/全〇時間)	ねらい	乗法を活用した牛乳の数の求め方を、同じ数のまとまりに着目し線で囲んだり移動させたりし、友だちと意見を伝え合い分類することにより、図と式、言葉などを用いて説明できるようにする。			
	評価規準【観点】	ものの数を求める場面で、乗法が適用できるように分割したり移動したりするなどの工夫を考え、図や式、言葉などを用いて説明できる。【思考・判断・表現】			
	展 開	<p>〇ケースに入った牛乳の絵を見せる。</p> <p>【めあて】かけざんをつかって、牛乳の数をしらべせつ明できるようになる。</p> <p>〇見通しのステップとして、最初に数が多いことや空いている部分があることに着目させ、今までの学習との違いを確認させる。</p> <p>〇次に、既習事項(1つ分の数×いくつ分、同じ数のまとまり、わけてたす等)を想起させながら、どんなまとまりに着目すればよいか出させる。</p> <p>〇各自が見通しをもった状況となったら、課題を位置付ける。</p> <p>◎絵を図式化することが難しい児童には、具体物を操作させることで、数のまとまりに着目できるようにする。</p> <p>【課題】 あいているぶぶんがある時、どうやって数えたらいいかな。</p> <p>〇自分の考えを図と式、言葉などで説明を書かせる。</p> <p>◎自分の考えがもちにくい児童には、既習事項の掲示物をもとにこれまでの学習を想起できるようにする。そして、友だちと伝え合う場の時に考えが書けている児童と意図的にペアにする。</p> <p>〇自分の考えを友だちと伝え合わせた後に、全体で出し合い説明させる。同じ考えの子どもがいたら、他の子どもにも説明を行うように促す。</p> <p>〇それぞれの考えの類似点と相違点を整理しながら分類し、まとめにつなげていく。</p> <p>【まとめ】まとまりを見つけてわけたり、うつしたり、ぜんぶからひいたりして計算するとできる。</p> <p>〇適用問題 並び方を入れ替えた牛乳の数を求め、ペアで説明させる。</p> <p>〇学びを自覚させるために、振り返りの視点を明確に持たせた上で、振り返らせる。</p> <p>【振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図やかけ算をつかってせつ明することができた。</li> <li>ぜんぶからひくことは思いつかなかったから、せつ明を聞いてつぎからつづいてみたい。</li> </ul>			

◎特別な教育的支援を必要とする児童生徒や「努力を要する」状況の児童生徒への配慮(手立て等)の位置付け。